

レチノールとトコフェロール同族体の同時測定について

里村由紀子・木村美恵子・糸川嘉則
(京都大学医学部衛生学教室*)

Simultaneous Determination of Retinol and Tocopherols by HPLC

Yukiko SATOMURA, Mieko KIMURA, Yoshinori ITOKAWA

Department of Hygiene, Faculty of Medicine, Kyoto University

Simultaneous determination of retinol, α -tocopherol (α -toc), β -tocopherol (β -toc), γ -tocopherol (γ -toc), and δ -tocopherol (δ -toc) was performed by high-performance liquid chromatography (HPLC). It had been difficult to separate β -toc and γ -toc completely when retinol and tocopherols were determined simultaneously by HPLC. A new reversed-phase column made it possible to separate β -toc and γ -toc completely with determination of retinol. The HPLC conditions were as follows, column: YMC-PACK A-302 S-5 120A ODS (ϕ 4.6mm \times 150mm), mobile phase: 70% isopropanol, sample solvent: 99.5% methanol, detector: UV (290nm), flow rate: 0.5ml/min, temperature: ambient, and column pressure: 120Kg/cm². This method maybe useful to clarify the relationship between retinol and tocopherols.

トコフェロールがレチノールの生体内動態に影響を及ぼしていることは、よく知られている^{1,2)}。トコフェロールとレチノールを同時に測定することは、両者の関係を明らかにするうえで重要であると考えられる。一方、トコフェロール同族体である α -、 β -、 γ -、 δ -トコフェロールは、その生物活性が異なる上³⁾、体内挙動も異なるという報告⁴⁾もみられる。従って、レチノールの生体内動態に及ぼす影響も、トコフェロール同族体によって異なることが考えられる。現在までに、数種類のHPLCによるレチノールとトコフェロール同族体の同時測定法が報告されている⁵⁻⁷⁾。しかし、レチノールと同時にトコフェロールを測定する方法では、トコフェロール同族体のうち β -トコフェロールと γ -トコフェロールを完全に分離、測定することは、困難とされてきた。

新しい逆相カラムを用いて、レチノールと同時に α -、 β -、 γ -、 δ -の4つのトコフェロール同族体を完全に分離、測定する方法について検討した結果を報告する。

*所在地：京都市左京区吉田近衛町（〒606）

実験方法

カラムは、YMC-PACK A-302 S-5 120A ODS を用いた。ポンプは島津 LC-3A，サンプルインジェクターは島津 LC-1，検出器は島津紫外分光光度計検出器 SPD-2A，レコーダー及びコンピューターとしては島津クロマトパック C-R6A を使用した。

α -， β -， γ -， δ -トコフェロールはエーザイ株式会社のビタミンE同族体セット 生化学・分析用を，レチノールはFluka Chemical 製のビタミンAアルコールを用いた。他の試薬は半井テスクのHPLC用のものを用いた。

レチノール及びトコフェロール同族体の混合標準液100 μ lを室温下でカラムに注入し，紫外分光光度計検出器を用いて290nmで検出した。

はじめに，試料溶媒は99.5%メタノールとし，移動相の組成のみをエタノール，メタノール，イソプロパノールに変化させてレチノール及び各トコフェロール同族体の分離を試みた。

さらに試料溶媒をメタノールから，エタノール，イソプロパノールに変えて，検討を加えた。

結果及び考察

1) 移動相について

メタノールでは移動相中のメタノール含有量を変化させても， β -トコフェロールと γ -トコフェロールを独立した2個のピークとして分離することはできなかった。

Fig. 1は，95%エタノールを移動相とした時に得られたクロマトグラムである。95%エタノールでは β -トコフェロールと γ -トコフェロールを分離することはできなかった。移動相のエタノール含有量を減量して分析を行った結果，86%以下のエタノール濃度では不完全ながら， β -トコフェロールと γ -トコフェロールを2個のピークとして分離できることが判明した。80%エタノールを移動相とした時のクロマトグラムをFig. 2に示す。 β -トコフェロールと γ -トコフェロールの保持時間の差は2.7分であるが，各ピークの幅が広く，分離は不十分であった。

移動相をイソプロパノールに変えて濃度を変化させた。その結果，70%イソプロパノールを移動相として用いた時に，レチノールと α -， β -， γ -， δ -トコフェロールを各々独立したピークとして分離することが可能となった(Fig. 3)。保持時間は，レチノール13.6分， α -トコフェロール49.8分， β -トコフェロール43.7分， γ -トコフェロール41.6分， δ -トコフェロール35.0分であった。

2) 試料溶媒について

移動相：70%イソプロパノールの条件下では，エタノール及びイソプロパノールを試料溶媒とした時は，メタノールを試料溶媒とした時と比較して， β -トコフェロールと γ -トコフェロールの分離が不十分であった。

3) 標準曲線について (Fig. 4)

レチノール，各トコフェロール同族体ともに，各々0.1 μ gから2.0 μ gの範囲で，試料濃度とピーク面積の間に直線関係が認められた。

Fig. 1. Chromatogram of retinol and tocopherols.

(95% ethanol as mobile phase)

Peaks: 1=retinol(0.1 μ g) 2= δ -tocopherol(1 μ g)
 3= β -tocopherol(1 μ g)+ γ -tocopherol(1 μ g)
 4= α -tocopherol(1 μ g)

Conditions:

column; YMC-PACK A-302 S-5 120A ODS
 (φ 4.6mm × 150mm) mobile phase; 95% ethanol,
 sample solvent; 99.5% methanol, sample size;
 100 μ l, flow rate; 0.7ml/min, detector; spec-
 trophotometric detector (290nm), temperature;
 ambient.

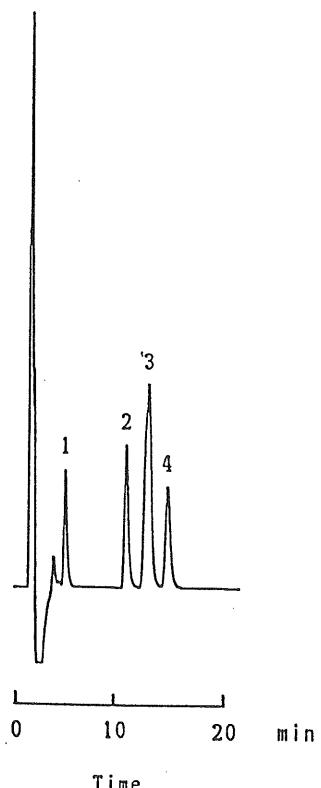


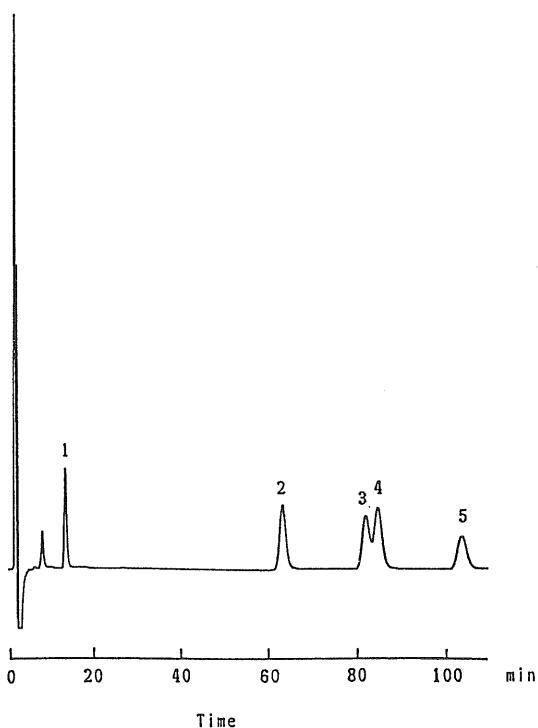
Fig. 2. Chromatogram of retinol and tocopherols.

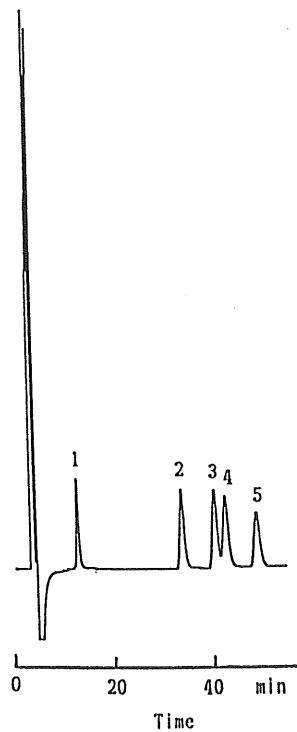
(80% ethanol as mobile phase)

Peaks: 1=retinol (0.1 μ g) 2= δ -tocopherol(1 μ g)
 3= γ -tocopherol(1 μ g) 4= β -tocopherol(1 μ g)
 5= α -tocopherol(1 μ g)

Conditions:

column; YMC-PACK A-302 S-5 120A ODS
 (φ 4.6mm × 150mm) mobile phase; 80% ethanol,
 sample solvent; 99.5% methanol, sample size;
 100 μ l, flow rate; 0.7ml/min, detector; spec-
 trophotometric detector (290nm), temperature;
 ambient.



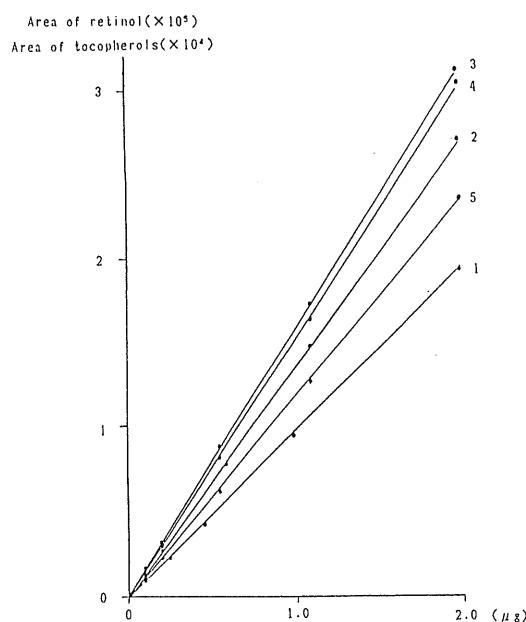
**Fig. 3.** Chromatogram of retinol and tocopherols.

(70% isopropanol as mobile phase)

Peaks: 1=retinol($0.1 \mu\text{g}$) 2= δ -tocopherol($1 \mu\text{g}$)
 3= γ -tocopherol($1 \mu\text{g}$) 4= β -tocopherol($1 \mu\text{g}$)
 5= α -tocopherol($1 \mu\text{g}$)

Conditions:

column; YMC-PACK A-302 S-5 120A ODS
 ($\phi 4.6\text{mm} \times 150\text{mm}$) mobile phase; 70% ethanol,
 sample solvent; 99.5% methanol, sample size; $100 \mu\text{l}$,
 flow rate; $0.5\text{ml}/\text{min}$, detector;
 spectrophotometric detector(290nm), temperature;
 ambient.

**Fig. 4.** Calibration graph obtained for retinol and tocopherols.

1=retinol, 2= δ -tocopherol, 3= γ -tocopherol, 4= β -tocopherol, 5= α -tocopherol. Conditions:
 column; YMC-PACK A-302 S-5 120A ODS($\phi 4.6\text{mm} \times 150\text{mm}$) mobile phase; 70% isopropanol,
 sample solvent; 99.5% methanol, sample size; $100 \mu\text{l}$, flow rate; $0.5\text{ml}/\text{min}$, detector; spec-
 trophotometric detector(290nm), temperature; ambient.

4) 検出感度について

検出感度は、レチノール0.2ng, α -トコフェロール20ng, β -トコフェロール15ng, γ -トコフェロール15ng, δ -トコフェロール10ngであった。

この測定法は、今後レチノールとトコフェロール同族体の相互関係を検討する上で、有用であると考えられる。生体試料の分析条件について、さらに検討中である。

文 献

- 1) AMES, S. P. (1969) Am. J. Clin. Nutr. 22: 934
- 2) NAPOLI, J. L., A. M. MC CORMICK, B. O'MEARA and E. A. DRATZ (1984) Atch. Biochem. Biophys. 230: 194
- 3) 美濃真, 玉井浩, 安田和人, 山田智恵子, 五十嵐脩, 林真粧美, 平原文子, 勝井五一郎, 貴島静正 (1988) ビタミン 62: 241
- 4) 平原文子, 木村修一 (1990) ビタミン 64: 251
- 5) RUSSELL, M. J., B. S. THOMAS and E. WELLOCK (1986) J. High Resolution Chromatogr. Chromatogr. Commun. 9: 281
- 6) DRISKELL, W. J., J. W. NEESE, C. C. BRYANT and M. M. BASHOR (1982) J. Chromatogr. 231: 439
- 7) HATAM, L. J. and H. J. KAYDEN (1979) J. Lip. Res. 20: 639